

第19回海洋立国推進功労者表彰受賞者

2. 海洋に関する顕著な功績 分野

海事 部門

氏 名	よしだ こういち 吉田 公一	年齢	75	
所 属	元 一般財団法人 日本舶用品検定協会 顧問			
功績の概要	船舶に係る国際基準及び国際規格の策定 に寄与			

功 績 事 項

これまで 50 年間の長きにわたって海事関連業務に携わり、40 年以上にわたって国際海事機関（IMO）の海上安全委員会（MSC）、海洋環境保護委員会（MEPC）及び各委員会等に日本代表顧問として参加し、小委員会の議長を務めるなど、船舶に係る国際基準の策定に大きく貢献するとともに、製品やサービスの国際標準である「ISO 規格」の船舶関連分野においても、長期にわたって国際標準化機構（ISO）の各種委員会に参加し、議長を務めるなど、船舶の安全や海洋環境の保護に大きく貢献した。

1. 平成 6 年には、IMO の常設小委員会の議長に我が国から初めて選出され、防火小委員会の議長を 10 年間務め、現在の国際船舶防火消防安全規則の礎を築いたと言っても過言ではなく、船舶火災安全分野の第一人者といえる。

平成 11 年からは、IMO の作業部会の議長等として、総合安全評価方法（FSA）を主導的に策定し、平成 13 年からは、FSA の手法を活用し、貨物船の新たな規則体系となる目標指向型基準（GBS）の創出を主導するとともに、GBS を海上人命安全（SOLAS）条約に導入することに貢献した。



2. 海洋環境保護に関しては、平成 15 年の IMO 第 23 回総会における技術委員会の議長に就任し、IMO で最初の温室効果ガスに対する施策と実施に関する総会決議をとりまとめた。

平成 19 年からの IMO・GHG スタディでは、国際船舶からの GHG 排出算定方法を提供し、第 2 次 GHG スタディ報告書のとりまとめに貢献した。平成 20 年からは、MEPC の「大気汚染防止・エネルギー効率作業部会」の議長を 13 年間務め、新造船の燃費基準であるエネルギー効率設計指標に係る海洋汚染防止（MARPOL）条約の改正案や船舶からの酸化窒素ガス及び酸化硫黄ガス排出制限の MARPOL 条約の改正に係る諸基準などをとりまとめた。これにより、地球温暖化防止に係る京都議定書のホスト国としての我が国の責務の履行とプレゼンスの向上に大きく貢献した。

3. 国際標準分野においても、日本を代表する技術者として ISO の複数の技術委員会（TC）に昭和 55 年以来参加するとともに、火災の安全と発達委員会（SC1）の議長を 10 年間務め、船舶の火災拡大メカニズムや材料の評価方法に関する国際規格策定を主導するとともに、海洋環境保護技術委員会（SC2）では、12 年間議長を務め、船舶に搭載する環境汚染防止装置や排水処理装置などの国際規格の策定も主導した。さらに、IEC における火災安全委員会の作業部会に平成 7 年以来参加し、平成 31 年以来作業部会の議長を務め、電気電子製品の火災安全に貢献してきている。